

1dayジェンカレ in 日本女性会議2025 榎原

～未来を変える！

“自分ごと”としてジェンダーを考えてみよう～

日時 2025年5月24日（土）13:00～15:30

会場 榎原市役所分庁舎コンベンションルーム

講師：櫻井 彩乃（一般社団法人GENCOURAGE代表理事）

対象：奈良県内在住・在学の学生（大学生、高校生など）

参加者数：29人

「1dayジェンカレ」は、地域の大学生・高校生を対象に、身近に潜むジェンダー課題を“自分ごと”化し、課題解決のための具体的な行動につなげることを目的として開催しました。

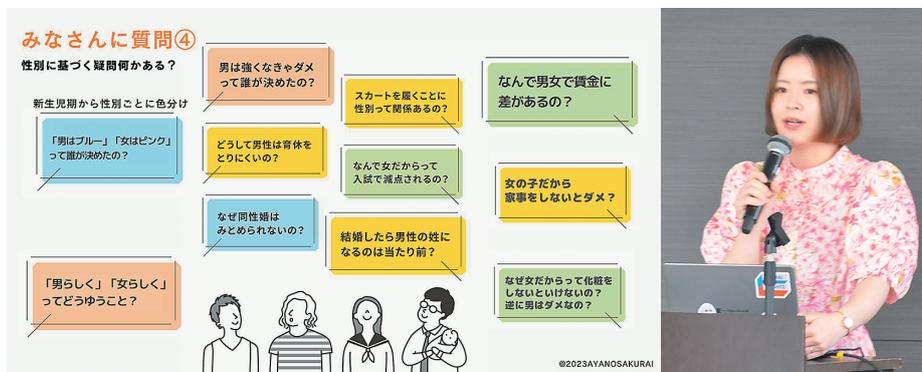
「ジェンカレ」とは、ジェンダー平等の実現に向けて包括的に学び・対話・行動を行うゼミ形式のオンラインプログラムのこと。今回の「1dayジェンカレ」では、ジェンカレのプログラムを凝縮し、基本的な知識を学ぶ“レクチャー”、ジェンダー課題を共有する“ワークショップ”、自分にできる行動につなげる“アクション”という3つのステップからなるプログラムで、ジェンダー平等の実現のための具体的なアクションを考えました。

また、「1dayジェンカレ」の受講後に活動報告を提出した参加者には修了証を交付し、さらには参加者を代表して4名が日本女性会議2025 榎原「記念シンポジウム」に登壇しました。

1. レクチャー

プログラムは、講師の櫻井さんによる、ジェンダーの基礎知識と日本の現状についてのレクチャーから始まりました。レクチャーでは、日本のジェンダー・ギャップ指数は世界146カ国中118位と

低く、世界全体でもジェンダー平等を達成するには133年かかるという試算が紹介され、ジェンダーギャップの要因として、「家庭責任の偏り」、「性別役割分業の構造化」「無意識のバイアス」「女性リーダー不足」などが指摘されました。ジェンダー平等とは、性別に関係なく誰もが自らの意思で人生を選べる社会を作ることであり、ジェンダー平等を実現するためには、ジェンダーを意識した視点をもって現状を知ること、そして様々な物事に男女が共にバランスよく参画していくことが重要であることを強調されました。



「ジェンダー
レンズ」をかけて
世界を見る

ジェンダー平等のイメージって？

- 理解しきれていない
- 実現が難しい
- 個性
- 多様性
- 男尊女卑をなくす

ジェンダーに関して「誰に」「どんなことを」言われたことがありますか？

- 親に — 「男の子だから泣かない」
- 先生に — 「女らしくしなさい」
- 母に — 「男は度胸 女は愛嬌」
- 知人に — 「早く結婚したら？」

2. ワークショップ

レクチャーの後は、6つのグループに分かれてワークを行いました。

グループワークでは、身の回りで感じたジェンダーに関するモヤモヤを洗い出し、その要因を探っていくことで、学校やアルバイト先、地域やメディアなど、日常に潜むジェンダー課題を共有し、背景には「意思決定層の男女比の偏り」や「昔から残る固定的な性別役割分担意識」という構造的な問題があることを確認しました。

身の回りにある
モヤモヤを
深堀り



共有された事例

- アルバイト先で —— 「女の子だから接客を担当して。」
- 学校で —— 進路や学部によって男女比に偏りがある
- アルバイト先で —— 上司に男性が多い
- メディアで —— アイドルの活動年齢に差がある
- 学校で —— 生理のことを先生にわかってもらえない
- 地域で —— 伝統行事に関わっているのは男性が多い
- SNSで —— ワンクリックの広告に女性モデルが多い
- 話し方 —— 「私」「僕」の一人称は性別限定？

高校生から大学生までの「ジェンカレ修了生」がファシリテーターとして各グループをサポート。



3. アクション

プログラムの最後には、参加者それぞれが「今日からできるアクション」を計画しました。「友人や家族とジェンダーについて話す」という身近な行動から「エシカル消費を心がける」「企業の賃金格差や育休取得率を確認する」など多種多様な行動が社会や、未来を変える行動につながることで、計画したアクションを行動につなげる重要性を学びました。

未来を変える
ための一歩を
踏み出す



私にできることは何か？

- 「女子高、女子大の良さを広める」
- 「月経についての体験型ワークショップを開催する」
- 「歴史的な固定概念を探ってみる」
- 「世界で困っている女性に寄付できる商品を買う」
- 「男性が多い学科で教員研修を実施する」
- 「ジェンダーだけでなく、その人の背景にある複合的な側面にも目を向ける」

参加者の声 (受講アンケートより抜粋)

- ・グループワークを通じて自らの性別への固定観念を実感し、偏見を持たない人は世界にいないのではないかと考えた。
- ・将来の教育を担う学生が、ワークショップでジェンダー課題に向き合うことは、教育を変える大きな一歩になる。
- ・仲間内以外の人々とジェンダーについて考えた経験は非常に貴重であり、今後も対話を深めたいと強く感じた。
- ・座学に留まらず、多様な対話や実践者の話に触れたことで、自分もジェンダーのために行動したいと実感した。

1か月後

MY ACTION REPORT 活動報告

1dayジェンカレで計画した「今日からできるアクション」。参加した学生が、ジェンダー平等実現に向けてどのような行動を行ったのかを、1か月後に、活動報告として提出してもらいました。

修了証
(活動報告提出者に交付)



日本女性会議2025檜原で活動報告を掲示

活動報告は「日本女性会議2025檜原」会場で掲示しました。活動報告を見た参加者からは「互いの意見を言い合えるきっかけづくりをされたことが素晴らしい。」「ジェンダーについて伝える方法として良い方法だと思う。」「私も声をあげられるようがんばりたい。」などのコメントが寄せられました。



記念シンポジウムに登壇！

1dayジェンカレに参加した学生を代表して、選出された4名の学生が、10月4日に開催された「日本女性会議2025檜原 記念シンポジウム」に登壇し、1dayジェンカレを通じて得た気づきやその後の具体的な活動について、全国から集まった参加者に向けて力強く発表しました。



ジェンダー平等な社会を若者の手で

講師：櫻井 彩乃

「それっておかしくない?」「本当にそうなのかな?」という気づきが、社会をよくするきっかけになります。ワークショップでは、自分の中にあるモヤモヤを言葉にし、周りの人と対話することで、一歩を踏み出すきっかけになりました。大きなことをする必要はありません。自分の周りから、できることを少しずつやっていけば良いのです。若者の声や行動がまちの中で広がっていくこと、そしてそれをみんなで応援すること。そんな連鎖が、未来を少しずつ変えていくのだと思います。

